

2011年2月17日

報道関係各位

中部学院大学短期大学部

フィリピン・ミンダナオ国際大学と調印式

ミンダナオ国際大学と「友好交流協定」を締結します

中部学院大学短期大学部（学長 片桐 多恵子）は、フィリピン共和国のミンダナオ国際大学（Mindanao Kokusai Daigaku ; MKD）と友好交流協定を締結することになり、2月28日に協定書調印式を行います。今回の友好交流協定の主な目的は、双方の学生、教員などの交流を通じて日比両国の異文化理解を促進すること、及び両学の有する教育・研究領域の情報共有化などです。

すでに、昨年9月には本学社会福祉学科の教員・学生を中心とする訪問団が交流研修を実施しており、そのなかで実施した本学教員による「介護技術特別授業」はMKDの学生・教員に大変好評を博しました。

今後は、相互の交流プログラムを充実するなかで、アジア地域の多文化・異文化理解を一層推進します。

記

- 日 時 2011年2月28日（月）午後1時30分～同2時
- 場 所 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 関キャンパス 大会議室
（関市桐ヶ丘二丁目1番地 0575-24-2211）
- 出席者 **【ミンダナオ国際大学】**
Ines P. Mallari（イネス・マラリ）学長
Lanie P. Vergara（ラニー・ベルガラ）社会福祉学科長
【中部学院大学短期大学部】
片桐多恵子 学 長
飯尾 良英 社会福祉学科長
志村 真 宗教主事
片桐 史恵 国際交流委員長
壬生 尚美 専攻科准教授
鈴木 恒一 幼児教育学科准教授
加藤コラゾン 幼児教育学科准教授
有川 一 幼児教育学科講師 ほか

1 「趣旨」

友好交流を進めるに当たり、本学短期大学部が締結する理由。

- 1) フィリピンの教育制度は6・4・4制を採用しており、4年制大学の卒業生は、日本の短期大学の卒業生と同年齢であること。
- 2) ミンダナオ国際大学の学科構成（教育学科、社会福祉学科、国際学科ほか）が本学短期大学部と似通っていること。
- 3) ミンダナオ国際大学の学生数は326名、専任教員数が28名と本学短期大学部と同様に小規模であること（本学の学生数は386名、専任教員数は28名）。

2 ミンダナオ国際大学

ミンダナオ国際大学は、フィリピン共和国ミンダナオ島ダバオ特別市にある、フィリピン高等教育委員会（CHED）の認可大学。NPO法人「日本フィリピンボランティア協会」が「フィリピン日系人会」と協力し、2001年に設立した。学科および2010年度の学生・教員数は、国際学科（日本語日本学専攻）233名、社会福祉学科（高齢者介護専攻、児童福祉専攻）57名、教育学科（幼児教育専攻、特殊教育専攻、中等教育専攻）14名、起業家育成学科18名、心理学科6名、計328名。専任教員28名（教員のうち6名が日本人）。

3 友好交流協定締結までの経緯

[2009年10月21日]

ミンダナオ国際大学の事務局長イネス・マリヤリ氏が本学を訪問。

[2010年3月11-14日]

本学短期大学部社会福祉学科の教員ら5名がミンダナオ国際大学を訪問。交流・研修プログラムを実施。

[2010年4月]

報告を受けて、国際交流委員会で学生および教職員による「交流研修プログラム」を立案。

[9月19-22日]

片桐多恵子短期大学部学長を団長とする教職員9名、学生8名（大学を含む）からなる訪問団がミンダナオ国際大学を訪問。研修・交流を実施。

（この交流には、社会福祉学科教員3名による「介護技術」特別授業も含まれていた。ミンダナオ国際大学の学生・教員からは「継続して介護技術の指導をしてほしい」との要望を得た。また、本学学生のアンケートでは、「フィリピン研修を次年度以降も継続してほしい」という感想が寄せられた。）

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学 事務局（担当：田口 事務局次長） TEL:0575-24-2211（関キャンパス内）